

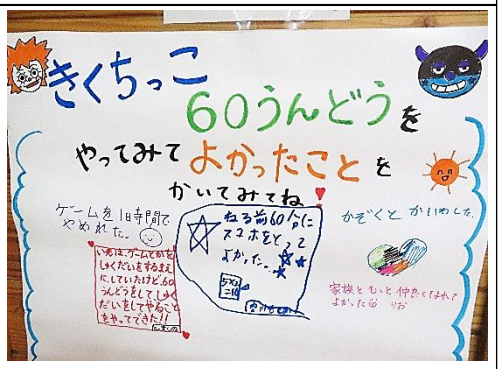
隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.23
文責 芹川博文
10月23日（金）

子どもたちの声に 大きなヒント
～ 保健室前書き込み掲示板「やってみてよかったこと」から～

○いつもは、ゲームとかを宿題をする前にしていたけど、
　６０運動をして宿題をしてやることをやってできた！
○寝る前６０分にスマホをとってよかった。
○ゲームを１時間でやめれた。
○家族と会話した。
○家族ともっと仲良くなれてよかった。



保健室前に書き込み式の掲示が登場しました。今ではめずらしくなった「全て手書き」が目を惹きます。そして、子どもたちのコメント（上）に大きなヒントを得ました。

生活リズムを整える「６０運動」が、「『良い』とは分かっていても難しい。ゲームやスマホがやめられない」という人は多いかと思います。習慣を変えるには大きな覚悟と意識の変化が必要です。しかし、「意識を変えるには、仕組みを変える」という言葉を聞いたことがあります。

例えば、上の「子どもたちの声」の一番上のコメントに「やることをやってできた！」とあります。書いた子に尋ねてみると、「ゲームを先にしていた時は、宿題をするのが遅くなっていたけど、宿題を先にするスタイルにすることができました」と、順番を変えたことでスッキリした気持ちが伝わってきました。また、書いた子は別々でも、全てのコメントに共通するつながりを感じました。それは、達成感。大きく言えば自立（自律）への一歩です。

小さな何かを変えた時に、それに連鎖して次の「一歩」が始まり、いつの間にか気持ち（意識）が変わっていく時があります。一度に大きな変化を望んで手をこまねいて「やるべきこと」がどんどん「嫌なこと」になる前に、やるべきことをやってしまう。やりたいこと（例えばゲーム）を楽しみにして、宿題をやってしまう。後は気持ちよく好きなことをする。「そんなのムリ」という人は、例えば家に帰ってからカバンを開けて中の物を出すだけでも変化があるかもしれません。あくまでも大きな変化（０→１００）を望まず、具体的な小さな一歩（０→１）からのスタートをおススメします。是非、ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。

子どもたちの「やってみてよかった」という声の中に、生活リズムを整え、自己コントロール力を身に付けて自立（自律）に向かうヒントが見えた気がした朝でした。

様々な命を感じ 人々の思いに触れる



金木犀の香りが漂う季節となりました。稲刈りが終わったところも多いようです。私が小学生の頃は、この季節の土日は、ひたすらワラ積みを手伝った記憶があります。牛のエサとなるワラを集め、牛舎の上に運び入れます。夕方になると、「パンば買うて来てくれ」と１００円玉を渡されました。当時は消費税もなく物価も安かった時代。菓子パンはどれも１個２５円。両親と兄と私、４個の菓子パンが１００円で買えました。１００÷４＝２５という割り算は、私にとって生活と密着したものでした。午後４時ごろ茶上がり（おやつのこと）を済ませ、日暮れまで仕事を手伝って４人で家に帰りました。

季節の変わり目には、田畑にたい肥がまかれました。我が家にも「たい肥ば分けちくれんかい」と、家や牛舎に来られていたのを覚えています。当然、たい肥は匂いがします。遠足などで我が家の牛舎の近くの道を通る時、鼻をつまむ友を横目で見ながら複雑な思いになったことを覚えています。

私たちが毎日食べている食べ物（肉や野菜）に、たい肥が深く関わっていることは奥深いことです。一方、生活の中で様々な命との関わりが、ますます見えにくくなっている危機感を覚えます。日々の生活での食べ物、服、文房具などの身の回りの物や事の、「源流」をたどっていくことで、直接目にすることのない場所や人々に思いを馳せる「関わりのヒント」が見つかるかもしれません。

２年生の通信に、「『お家の人の仕事』の作文発表を始めます」とありました。家族と仕事は切り離せません。仕事をされる家族の方の思いに触れると共に、どの仕事も暮らしと関わり、人との繋がりを感じることでしょう。様々な命を感じ、人々の思いに触れる機会を大切にしたいと思います。